

# 見学会レポート

関東甲信越支部建築交流部会  
2006年12月

## 時を経て輝き続ける建築の記憶 ～東京・関東の名建築を建築家と尋ねる～

■実施日：2006年10月14日（土）午前10:00～午後1:00

■講師・見学場所：新居千秋氏・横浜赤レンガ倉庫

今年度第1回の見学会は今までと少し趣向を変え、保存改修の設計をされた建築家に、設計にあたってのエピソードや「苦労話」などをお聞きした後見学を行うという企画としました。



建物基壇に照明が組み込まれた広場ライトアップされた赤レンガ倉庫(写真：新居千秋氏の資料より)



明治建築界の巨人  
**妻木 頼黄**  
TSUMAKI YORINAKA



大蔵省臨時建築部長  
**妻木 頼黄**  
(1859~1916)



新居千秋氏：画像を使い大変分かりやすく丁寧な講演。



当日は桜木町駅前の横浜市の施設の会議室で、見学に先立ち新居千秋氏の講演会を行いました。今までは見学会会場で説明を行っていましたが、今回は画像などを使って、見学を行う建築の歴史から設計・施工に関する内容まで、詳細な説明を会議施設の中でゆっくりとお聞きすることが出来ました。

資料についても、「新居千秋都市建築設計」事務所のご協力をいただき、A4判7頁に及び貴重な資料を配布することが出来ました。



当日用意していただいた資料  
(準備の都合上配布したものは、カラー2枚・他は白黒)

「横浜赤レンガ倉庫」の設計は明治の巨匠「妻木頼黄」によるものですが、東京駅の設計で知られる「辰野金吾」との「軋轢」など当時の建築界のエピソードなどを交えながら、「スクラップ・アンド・ビルド」の社会風潮の中にありながら・・・歴史的建築物を守り抜き、・・・25年の歳月を掛けて計画を作り上げてきた。」経緯などを分かりやすく、画像を用いながら詳しく解説していただきました。また、実際の保存再生にあたっての、設計や工事上の問題、あるいは運営にかかわるガイドラインの作成のお話など、実際に設計を担当された建築家ならではのエピソードなどをお聞きすることが出来、参加された方々にもこれから見学する「横浜赤レンガ倉庫」の建物や歴史に、大いに興味を持っていただくことが出来ました。



会場風景：挨拶は建築交流部会長、亀井正浩氏  
(会場：横浜市健康福祉総合センター)



↑ランドマークタワーを背に「自動車道」を「赤レンガ倉庫」に向かう「見学会」一行の皆さん。

←「自動車道」は「MM21」の高層ビル群を見るビューポイントにもなっているようです。新居氏を囲んで話を聞く見学会参加者。

講演会の後、桜木町から「赤レンガ倉庫」に向かって「自動車道」を新居氏の案内で移動。新居氏はこの周辺の再開発に詳しく、ポイントポイントで立ち止まって楽しく説明をしていただきました。天気にも恵まれ、海を渡る爽やかな風と、10月にしては暖かな日差しを受けて、通常約15分の行程を30分ほど掛けて、ゆっくり周辺の風景を楽しみながらの心地よい散歩となりました。

「赤レンガ倉庫」の1号館はちょうど国際会議のさなかで、ホールなどの見学は出来ませんでした。倉庫側のご好意で内部の見学も無事終わることが出来ました。2号館についてはテナントの「BEER NEXT」のご理解もあり、レストラン内に設置された新居氏デザインの「コンター（等高線）模型」のようなアクリルのテーブルを前に、お話を伺うことが出来ました。

見学会としては新しい試みの企画でしたが、参加者も30名程度と理想的な人数となり、新居千秋氏の熱心なお話と晴天に恵まれ、今までとは一味違った見学会となりました。準備にはいろいろ苦労が伴いますが、時々このような企画も楽しいのではないかと思います。



レンガ倉庫に向かう途中で



1号館3階エレベーターホールで



2号館レストランのテーブルを囲んで

■見学会企画：  
建築交流部会  
副部会長  
横山晋一さん  
(ものづくり大学)

文責：建築交流部会  
上田耕二